

旧八幡図書館の記念碑について

1 記念碑の制作理由

旧八幡図書館を解体するにあたり、長年市民に慣れ親しまれてきた建物であることから、旧図書館で使用していた部材を活用した記念碑の制作を検討することとした。

2 記念碑のコンセプト

- 旧図書館の敷地付近に設置し、旧図書館がそこにあったことを想起させるようにする。
- 旧図書館に使用されていた2種類のレンガを活用するとともに、旧図書館の概要を紹介する記念碑とする。

3 記念碑の設置場所

新病院への来院者や新病院の前面道路の通行者からわかりやすい場所とすること、また、旧図書館の出入口部を新病院の歩行者出入口の1つとして整備することから、その出入口に接して記念碑を設置する。

4 記念碑の構成

(1) 記念碑土台

- 旧図書館が長年市民に親しまれた建物であり、外壁に使用されていたレンガが特徴であることから、解体時に保存している2種類のレンガ（約1,000個）を活用して記念碑を制作する。
- レンガを貼り付けた記念碑の土台に、旧図書館の概要が分かるように、外観写真等を記載した説明板を設置する。
- 2種類のレンガの配置については、4種類の案から、図書館利用者等に投票していただく（投票の詳細については別紙を参照）。

(2) 説明板

- 外観写真のほか、建物概要を記載する。
 - ・建物建築年
 - ・建物の特徴
 - ・設計者村野藤吾氏のプロフィール
- 等

旧図書館記念碑の

レンガ配置を決める投票について

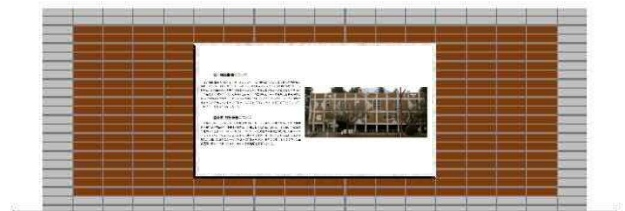
- 下記4種類のレンガ配置案から選んで投票していただく
- 投票は八幡図書館及び八幡東区役所で実施する
- 投票は無記名とする（ただし、年齢や居住区程度は記入）
- 投票期間は10月の約1ヶ月間とする

記念碑 ①案

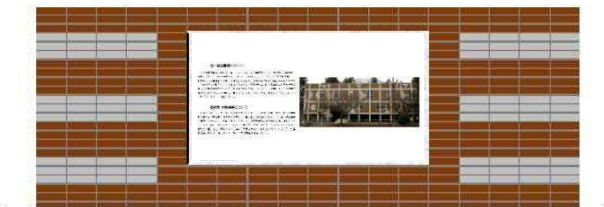
約 4.2M



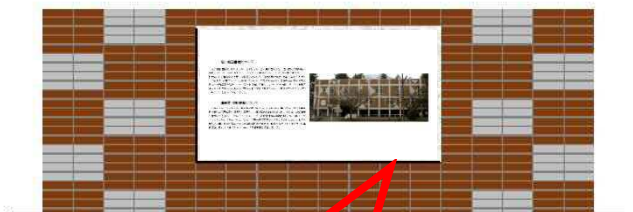
記念碑 ②案



記念碑 ③案



記念碑 ④案



説明板のイメージ

旧八幡図書館について

旧八幡図書館は、昭和24年（1949年）に八幡東区役所、旧八幡市役所跡地に建設された。戦後の復興事業の一環として建設されたこの図書館は、当時の先進的な建築技術とデザインが特徴である。また、地域の文化振興と教育の発展に大きく貢献してきた。この図書館は、地域の歴史と文化を伝える重要な役割を果たしている。

建築家 村野藤吾について

村野藤吾は、昭和初期の建築界で活躍した著名な建築家である。彼は、モダニズムの考え方を取り入れ、伝統的な建築様式と融合させた独自のスタイルを確立した。旧八幡図書館は、彼の代表作の一つとして知られている。この建築は、その洗練されたデザインと機能性を兼ね備えている。村野藤吾の建築は、日本の近代建築史に重要な位置を占めている。

